

全日本実業団剣道連盟の沿革

(設立昭32.11.23)

一 全日本実業団剣道連盟設立の経過とお願

昨年九月二十一・三の両日東京九段書院体育館において、全国から九〇余のチームが参加して行われました第四回全日本実業団剣道大会は、全国実業団体育連盟主催のもとに行われたものであります。

この全国実業団体育連盟は剣道のみでなく、柔道・弓道・庭球・駅伝等多くの競技種目を主管して全国大会を行っており、昨年の剣道の如く九〇を超えるようにさかんになった現在では特定の当番会社だけでお世話するのは到底至難なこととなり、かねてから実業団剣道一本の全国的組織を急務としておりました有志相寄り、実業団体育連盟とは別個に独立した全日本実業団剣道連盟を組織することとなりました。まづ全剣連の会長・副会長その他各部門の方々と種々御相談し、御承諾のもとに設立発起人となつていただくことを全国の剣道部を持つ会社の社長理解ある役員の方々にお願いたしましたところ、これ亦たちどころに七〇余の御承諾をいただいた次第であります。

早速昨年十一月二十三日恰度全国学生剣道選手権大会の日に発起人総会を開催、会長に矢野一郎氏(第一生命保険相互会社社長)を推戴、本年一月二十五日の実行委員会において別紙のごとく連盟規約の決定を見、ひきつゞき副会長・理事長・理事等々の選任・入会金・会費その他の要綱も決定された次第であります。

ここに名実共にその設立を完了致しました全日本実業団剣道連盟は早速全国にあつて加盟の勧誘をなし、現在のところ、三井銀行・同和火災・杉田製線・第一生命・日本軽金属・旭化成・朝日生命・東洋レィオン・阪急百貨店・日本鉱業・平和相互・野田醤油・三井金属・樟本チエイン・古河鉱業・三菱地所・芝浦精糖等本社および専業所を併せますと三〇を超える申込みとなつた次第で大体以上が只今加盟迄の全実剣連のあらましであります。

さて当連盟といたしましては、三月末にはせめて発起人会社だけでも加盟していただいて一日も早く健全充実した態勢となり、来る九月の全国大会を千駄ヶ谷の東京体育館で未曽有の盛會裡に終らせ度いと考へておる次第であります。就きましては、何卒各県の斯界の指導者である皆様におかれましても実業団剣道連盟設立の趣旨及びその普及徹底方につき深甚の御協力をお願いする次第であります。

昭33.9.21 1回大会
昭32=昨年

二 役員名 (五十音順)

会長 矢野一郎 (第一生命保険相互会社社長)	理事長 武藤秀三 (兼)
副会長 大谷一雄 (住友化学工業株式会社専務取締役)	理事 大谷一雄・石本広一
石本広一 (川鉄商事株式会社専務取締役)	土川元夫・野田 幸
土川元夫 (名古屋鉄道株式会社副社長)	宮田正男・安西正夫 (以上兼務)
野田 幸 (阪急百貨店株式会社取締役社長)	河合 幾晴 (日本鉱業株式会社専務取締役)
坂内 義雄 (日本繊維株式会社取締役社長)	服部 武三郎 (服部時計店取締役)
宮田正男 (三菱地所株式会社専務取締役)	小沢 親光 (大辻炭礦株式会社取締役)
武藤秀三 (三菱養和会理事長)	監事 児玉 幸蔵 (三井銀行取締役人事部長)
山中 義貞 (日本ベルト株式会社会長)	白井 貫二 (小西酒造株式会社専務取締役)
安西正夫 (昭和電工株式会社副社長)	森下 泰 (森下仁丹株式会社取締役社長)

※顧問・参与は選考中、副会長は選考の上二兩名の追加がある見込みであります。

三 本連盟へ加盟について

本連盟規約第五条に定めてあります通り加入単位は企業又は企業の事業所でありまして、一社であつても複数の剣道部を有せられる場合は各剣道部毎に御加入願う建前でございます。従つて全国大会においても各加盟単位毎に参加資格を生ずることとなります。

四 入会金および会費

▽入会金 五千元
▽会費 年額 五千元
但し三十二年度会費(自一月乃至三月) 壹千五百円
※維持会費は一口五千元とし、必要により任意で出願することとする。

五 明年度の行事

A 全国大会 昭和三十三年九月二十一日もしくは二十八日に東京において開催の予定
B 地方大会 本部においては現在特別の企画をもたない
地方の状況に応じて開催することは任意である

六 入会申込先

加盟希望の方は事務局
東京都千代田区有楽町二丁目九 第一生命保険相互会社内
全日本実業団剣道連盟宛 御申込み下さい 電話 東京 〇三三四一